

# JACET-Kansai Newsletter

No. 28 April 21, 2005

Chapter President: 岡田 伸夫 (Nobuo Okada, Professor, Osaka University)

JACET-Kansai Office: 〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学 相川真佐夫研究室内  
(Masao Aikawa, Kyoto University of Foreign Studies, 6 Saiin Kasame-cho, Ukyo-ku, Kyoto city 615-8558)

Tel: 075-322-6079 Fax: 075-322-6245 E-mail: aikawa@nnc.or.jp URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

Postal Account: 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

## 言語と考える力

支部長 岡田 伸夫

経済協力開発機構 (OECD) の 2003 年学習到達度調査(各国の 15 歳児が対象)における日本の高校 1 年生の読解力は、前回調査の 8 位から OECD 加盟国平均レベルの 14 位に下がりましたが、文部科学省によると、日本の生徒は読解力問題の中でも記述・論述問題に弱いということです。

国語力の低下は一昔前から指摘されていますが、文部科学省は 2003 年 4 月に国語の指導法や教材の開発を目的とする初めての試みとして、国語力向上モデル地域と研究推進校を指定しました。国語力向上モデル地域は全国で 22 地域、研究推進校は小学校から高校までの計 192 校です。

読売新聞(本年 3 月 8 日付)の教育ルネサンス No.29、読み解く力 6 「社会で算数で『国語力』」の記事の中で、研究推進校の 1 つ、秋田県大曲市立大曲小学校の取り組みが紹介されています。大曲小学校は、昨年 4 月に「国語以外の教科でも国語力を鍛える」というテーマを加えました。近年、cross-curricular とか across the curriculum という用語をよく耳にしますが、言語がほとんどすべての教科・科目の教授・学習において決定的に重要な役割を果たすということを考慮すると、「国語以外の教科でも国語力を鍛える」ことは大変重要であり、中・高の国語以外の教科の教員が自分を国語の教員でもあると意識することが何よりも大切です。

大曲小学校の 3 年生の算数の「あまり」のある割り算の文章題の中に、<23 個の箱を運ぶ仕事を頼まれました。車には 1 回に 6 個ずつ積むことができます。何回で運ぶことができますか> という問題がありました。この問題に対する多くの生徒の答えは「3 回」でした。先生方は、誤答の原因は、児童が「6 個ずつ」の「ずつ」から、「1 回に運ぶのは必ず 6 個。残り 5 個は「あまり」で運べなくても仕方がない」と判断したことにあると結論されました。先生方は、児童が 4 回目に運ぶ箱は 5 個でも構わないということに気づくためには、生活実感に裏づけられた国語力が必要と実感されたそうです。

しかし、誤答の原因は、本当に、児童が「6 個ずつ」

の「ずつ」から、「1 回に運ぶのは必ず 6 個」と判断したことにあるのでしょうか。私は、誤答の原因は、むしろ、生徒の生活経験や常識が不十分で、日常生活において箱を運ぶことの意味や目的が理解できていなかったことにあるのではないかと思います。現に、1 週間後の読み解く力 12 「国語軽視“考えない”生活」(3 月 16 日付読売新聞教育ルネサンス No.35)の記事を読むと、大曲小学校の別のクラスで出題文を「6 個まで積むことができる」に変えて調査しても、やはり「3 回であまりが 5 個」という答えが圧倒的に多かったと報告されています。

ただ、このクラスでは、正しく「4 回」と答えた児童が、「4 回じゃないと全部運べないよ」と解答の根拠を説明したために、当初「3 回であまりが 5 個」と言っていた児童も、次から次に「そうだ」「そうだ」と納得したのだそうです。当初誤解していた児童が、正解した生徒から言葉による説明を受けた後、次から次に正解にたどり着いたという事実は、考えるときには言語が重要な役割を担っているということを明白に示しています。言語教育においては、コミュニケーション能力の育成だけでなく、言語意識の高揚と、言語を通して考える力の育成も視野に入れて教育することが大事だと思います。

## 2004年度春季理事会報告

3 月 30 日～31 日の両日にわたり、2004 年度春季理事会が開かれた。第 7 号議案は「学会の組織構成に関する件」だったが、3 月 29 日～30 日の両日にわたり開かれた組織運営委員会における審議を踏まえ、「会則以外の諸規定等：各支部規約の統一」について審議した。そこで支部規約の書き方について次のことが決まった。

(1) 各支部の内規は次の順序で作成する。

前文、第 1 条名称、第 2 条目的、第 3 条事業(大会、出版)、第 4 条会員、第 5 条役員(任務、任期、再任、選出方法、支部長、副支部長、支部幹事、正・副幹事)、第 6 条役員会。

(2) これ以降の 7 条、8 条、9 条、10 条などは、各支部で必要に応じて設け、最後に事務局の所在地を明記する。

(3)この件は、組織構成委員会で作業を進め、2005年度の秋季、年末、春季理事会で引き続き検討し、最終的には2006年度関西外大大会時に決定する。

(4)評議員、研究企画委員の任期は、親規定の範囲内で支部ごとに定めてもよい。

また、今後の課題として「副会長を1~2名とする、理事の定数と選出方法を決める、支部長の選出方法を決める」があげられた。今後、組織構成委員会が、これらの課題を順次審議し、それぞれに一定の結論を出すことになる。

### 第9次研究会メンバー募集のお知らせ

JACET 関西支部の研究会は2005年3月末をもって第8次研究会が終了し、4月からは新たに第9次研究会としての活動に入りました。各研究会では新たにメンバーの募集を行いますので、参加を希望される方は下記の連絡先に参加申込をして下さい。なお、一部の研究会につきましては、6月のメンバー確定までの仮の連絡先として、第8次研究会の代表者の方のお名前が掲載されております。各研究会の活動内容につきましては、支部ホームページをご覧ください。

JACET 関西支部第9次研究会

#### [教材開発研究会]

代表：幸重美津子 副代表：大内和正  
連絡先：ouchi@kitaoji.com (大内和正)

#### [談話分析研究会]

代表：林宅男 副代表：仲田陽子  
連絡先：takuo@kcc.zaq.ne.jp (林宅男)

#### [海外の外国語教育研究会]

代表：Fouser, J. Robert 副代表：西尾由利子  
連絡先：robert@fouser.mbox.media.kyoto-u.ac.jp  
(Fouser, J. Robert)

#### [学習英文法研究会]

代表：山本英一  
連絡先：yamamoto@ipcku.kansai-u.ac.jp  
副代表：甲斐雅之  
連絡先：kai@kyoto-wu.ac.jp

#### [リスニング研究会]

代表：高橋寿夫 副代表：津村修志  
連絡先：tsumura@osaka-seikei.ac.jp (津村修志)

#### [文学教育研究会]

代表：吉村俊子  
連絡先：ty3asy@mbox.kyoto-inet.or.jp  
副代表：内藤満  
連絡先：m-naitou@joy.hi-ho.ne.jp

#### [リーディング研究会]

代表者：倉本充子 副代表：氏木道人  
連絡先：miwaym@wg8.so-net.ne.jp (山科美和子)

#### [ライティング指導研究会]

代表：西嶋久雄  
連絡先：hisnishi@mww.mukogawa-u.ac.jp

代表：jorvik@nifty.com

副代表：金志佳代子

連絡先：k-kinshi@paw.hi-ho.ne.jp

#### [口語英語研究会]

代表：石川保茂 副代表及び事務局：三宅弘晃  
連絡先：academic@decopach.com (三宅弘晃)

#### [ESP研究会]

代表：新田香織  
連絡先：nitta-wav@rinku.zaq.ne.jp  
副代表：神谷健一  
連絡先：kamiya@ip.oit.ac.jp

#### [英語力指標研究会]

代表：藤林富郎  
連絡先：t-fujibayashi@kinran.ac.jp  
副代表：田辺義隆  
連絡先：yop0307@ybb.ne.jp

### \* 春季大会懇親会へのお誘い \*

春季大会プログラムにもご案内の通り、フルールにて懇親会が開催されます。皆様、奮ってご参加ください。

会員：事前申し込みの場合

一般会員 3,000円 (4,000円 Beer含む)

学生会員 2,500円 (3,500円 Beer含む)

会員：当日申し込みの場合

一律 3,500円 (4,500円 Beer含む)

非会員：事前申し込み、当日申し込みとも

一律 3,500円 (4,500円 Beer含む)

\*\*\*\*\*

ノンアルコールをご希望の皆さんとアルコール有り(Beerのみ)をご希望の皆さんのそれぞれのご希望にお応えできる形になっております。会員の皆様にはぜひとも事前申し込みをご活用していただきたくお願い申し上げます。申し込み方法は、同封の振込用紙にて御所属と該当金額をご記入いただき、5月20日までに郵便局でお振込みください。

懇親会費を事前振込みでご送金いただきましたら、当日料金計3,500円(or4,500円)のところ、送金手数料を含む総額は3,000円(or4,000円)+振込み料70円(同封振込み用紙でのATM振込みの場合60円で3,060円または4,060円)となります。学生会員としてご登録の方は、さらに500円安くなります。

\*\*\*\*\*

Invitation to the party: 18:05 ~ 19:35 at the college cafeteria "Fleur" (in Fureai Hall)

Participation fee: 3,500 yen (3,000 yen for members and 2,500 yen for student members if paid before the 20th of May. ) If you like to drink beer, please add 1,000 yen.

(会計担当幹事 藤林富郎 Tomio Fujibayashi)

2005 年度 JACET 関西支部秋季大会  
ワークショップ・研究発表・実践報告応募要領  
(日本語版)

2005 年度 JACET 関西支部秋季大会は、10 月 8 日(土曜日)に神戸大学で開催されます。ワークショップ・研究発表・実践報告を募集いたします。締め切りは、2005 年 7 月 7 日(木)(必着)です。発表をご希望の会員の方は、次の要領で関西支部事務局までご応募ください。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

1. 発表は英語教育および関連分野に関する未発表のものに限ります。
2. 研究発表・実践報告は、発表が 20 分、質疑応答が 10 分、合計 30 分の形式になります。
3. 応募者は、応募書類(A、B の 2 種)を、E-mail 添付書類、または「研究発表申込在中」と朱書きした封筒にて、事務局まで送付してください。応募書類はホームページからダウンロードできます。

A) 応募情報

- a) 発表形式: ワークショップ、研究発表、実践報告の別をご記入ください。
- b) 発表題目(日本語と英語)
- c) 発表者情報(共同発表は全員): 氏名(漢字とローマ字) 所属(日本語と英語) 連絡先住所、TEL、FAX、E-mail、
- d) 発表に使用する言語(日本語または英語)
- e) 使用希望機器(無い場合は「なし」と明記)

B) 発表要旨(目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献等)

日本語による発表の場合は 800 字(A4 用紙ワープロ打ち)程度、英語による発表の場合は 300-400 words(A4 用紙ワープロ打ち)、無記名とする。

重要 文字数を厳守して下さい。

4. 締め切り: 2005 年 7 月 7 日(木)(必着)
5. 選考は選考委員会にておこないます。
6. 選考結果は、締め切り後 1 ヶ月程度で E-mail あるいは封書にて通知します。
7. 送付先: (E-mail) aikawa@nnc.or.jp  
(郵送の場合)  
〒615-8558 京都市右京区西院笠目町 6  
京都外国語大学 相川真佐夫研究室  
大学英語教育学会 関西支部事務局  
受取り確認のお知らせを一両日中に E-mail または葉書にて差し上げます。万一、連絡がない場合はご一報ください。
8. その他: ワークショップの詳細については、事務局までお問合せください。

Conference Presentation Proposals  
(English Version)

The 2005 Fall Conference of the JACET Kansai Chapter will be held at Kobe University on October 8, 2005. Members of the JACET Kansai Chapter are invited to present proposals for research papers, reports on classroom activities and workshops. Conditions and procedure for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) A research paper or a report on classroom activities should consist of a 20-minute presentation and a 10-minute Q&A period. With regard to workshops, please contact the JACET Kansai office for details.
- 3) The following proposal forms A and B should be prepared on separate sheets and submitted to the JACET Kansai office either by E-mail (attached documents) or by post (with 'proposal form enclosed' indicated on the envelope in red). These forms for proposals are available from the Website.

- A) Application form: a) Type of proposal (research paper, report on classroom activities or workshop); b) Title of proposal; c) Information about applicant: name, affiliation, postal address, phone number, facsimile number, e-mail address; d) Language for presentation (English or Japanese); e) Equipment required.

With regard to c), if this is a group proposal, please indicate all members.

- B) Abstract: anonymous; 300-400 words. (Some mention should be made of the purpose of the research; background; methods; conclusion; references.)
- 4) Proposals must arrive at the JACET Kansai office by no later than July 7, 2005.
  - 5) Selection of the proposals will be carried out by the Reviewing Committee.
  - 6) Notification of acceptance will be sent from the office within a month after the deadline.
  - 7) Contact address: (E-mail) aikawa@nnc.or.jp  
(Postal Address) JACET-Kansai Office: Masao Aikawa, Kyoto University of Foreign Studies, 6 Saiin Kasame-cho, Ukyo-ku, Kyoto city 615-8558
  - 8) Acknowledgment of the receipt of your proposal will be sent by e-mail or post within two days after its receipt. If you do not receive an acknowledgment, please inform the office as soon as possible. E-mail submission of proposals is preferred.

## 他支部からの献本

JACET 関東甲越地区から『2004 年度研究年報』が、JACET 中国・四国支部と北海道支部から紀要が届きました。以下に、紀要の内容をご紹介します。お問い合わせは、各支部事務局までお願いします。

### 大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要 第 1 号 (2004 年 3 月)

#### 【研究論文】

- ・ A Comparison of English Words and Kanji Lexical Processing from Sound to Print among EFL False Beginners --- Tomoko NAKAMURA, Akira UNO & Monika SZIRMAI
- ・ Establishing the “Role” in Classroom Method --- Roger NUNN
- ・ 教育的観点からの英語依頼表現 - 中学校・高等学校の英語教科書分析とアンケート調査に基づいて - --- 河村 雅子
- ・ Chunk による記憶の有用性 - 無生物主語他動表現の場合を通して - --- 三宅 美鈴

#### 【実践・研究報告】

- ・ Some Notes on Tutorial-based Lectures for the English-to-Japanese Translation Classes --- Hidenori KASHIHARA

#### 【特集】

- ・ 「中国・四国地区大学における現状と課題 - TOEIC® 導入に関連して」(第 20 回 JACET 中国・四国支部山口研究大会シンポジウムから)
- ・ 英語教育改革の行方: 愛媛大学の取組を振り返って --- 折本 素 (愛媛大学)
- ・ 広島大学の TOEIC® テスト導入に関する現状と課題 --- 前田 啓朗 (広島大学)
- ・ 鳥取大学における英語カリキュラム改革について --- 筏津 成一 (鳥取大学)
- ・ 覚え書: TOEIC® はツールである --- 宮崎 充保 (山口大学)

### 大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要 第 2 号 (2005 年 3 月)

#### 【研究論文】

- ・ A Study on the Relation between the Development of L2 Linguistic Knowledge and Literary Reading --- Takayuki NISHIHARA
- ・ Specifying the Issue of Teaching Communication Strategies in Reference to Levelt's Speaking Model --- Chiaki IWAI
- ・ Social Constrains and Japanese Adult Second Language Learners in the US --- Etsuko SCULLY
- ・ Sustaining Motivation Through Course Design in Japanese Universities --- Darren LINGELY
- ・ Exploring Japanese University Students' Beliefs about

English as an International Language --- Osamu IKENO

- ・ 日本人英語学習者による非対格動詞と非能格動詞の習得 --- 山川健一・杉野直樹・木村真治・中野美知子・大場浩正・清水裕子
- ・ 文章理解過程モデルの変遷—より包括的なモデル構築に向けての示唆— --- 大澤 真也

#### 【実践・研究報告】

- ・ The Application of Phonics Teaching in Junior High School English Classes in Japan --- Chiyoki TAKEDA
- ・ Politeness Theory in Second Language Learning --- Mitsuyo SUZUKI, Kimiko OCHI

#### 【研究ノート】

- ・ Rethinking of Negative Feedback: Review of Five Articles --- Satomi TAMAI

#### 【特集】

- ・ 「英語カリキュラム改革の功罪—本音を語ろう」(第 21 回 JACET 中国・四国支部松山研究大会シンポジウムから)
- ・ 島根大学外国語教育センター発: 新英語教育プログラム --- 廣瀬 浩三 (島根大学)
- ・ 鳥取大学における 2003 年度 TOEIC® テスト実施報告 --- 筏津 成一 (鳥取大学)
- ・ 安田女子大学における共通教育外国語科目の改革について --- 松岡 博信 (安田女子大学)

### 大学英語教育学会北海道支部研究紀要 第 2 号

- ・ Metacognitive strategy instruction in L2 reading --- Tomohito HIROMORI
- ・ 日本語母語成人の英単語音読における規則性の認識 --- 山田 恵
- ・ COLT PartA によるコミュニケーションを指向した英語プログラムの授業分析 --- 石塚博規・横山吉樹・平田洋子・青木千加子・伊東優子・河合靖・高井収・新井良夫

#### 授業学研究委員会からのお知らせ

当委員会では、来年 9 月を目処に『高等教育における英語授業の研究 - 授業実践報告を中心に』(仮称)を刊行することになりました。内容は、授業の改善や向上を目指すためのもので、総論編、実践事例編、分析編の 3 部構成を予定しています。その中心となる < 実践事例編 > への投稿を会員の皆様から広く募ります。詳細につきましては、5 月初旬に JACET 本部から送付の募集要項等をご覧ください。また、JACETHP からもお覧いただけます。

(担当幹事 小栗裕子)